

1804 (文化元) 年、ロシアの使節レザノフは長崎に来航して通商を求めたが、翌年幕府はこれを拒絶した。次の文章は、この時レザノフに読み聞かせた申渡しの最初の部分である。これを参考として、鎖国下の対外関係について 5 行以内で説明せよ。

東大の日本史で与えられる史料は、ほとんど現代語訳されている。これは数少ない例外の出題である。こういう場合、きちんと意味を捉えれば、それだけで答案の大枠ができることが多い。そこで、まず関係すると思われる部分を要約する

我国昔より海外に通問する諸国少なからずといえども、こと便宜にあらざるが故に、厳禁を設く。

我国の商戸 (商人) 外国に往く事をとどめ、 → []

外国の賣船 (商船) もまた、もやすく (容易に) 我国に来る事を許さず。しいて来る海舶ありといえども、固く退けていれず。 → []

ただ唐山 (中国)・朝鮮・琉球・紅毛 (オランダ) の往来することは互市 (貿易) の利を必とするにあらず、 → []

来ることの久しき素より其いわれあるを以てなり。 → []

其国 (ロシア) の如きは、昔よりいまだ曾て信を通ぜし事なし。 → []



これで幕府の主張の大枠を描くことができる。

幕府は [] し、 [] ← Aブロック

そして [] を [] に限定した。 ← Bブロック

そしてこの関係を [] と考え ← Cブロック

[] ことを [] した。 ← Dブロック



これをもとに、Aブロックの理由、Bブロックの具体的な内容を書き足すとともに、Cブロックが言わんとすることを端的に表現する。